

くりはざま
栗狭間遺跡

所在地 豊田市下山田代町字栗狭間
(北緯35度1分26秒 東経137度19分32秒)
調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業
調査期間 平成24年8月21日～平成24年12月14日
調査面積 2,950 m²
担当者 宮腰健司・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「東大沼」)

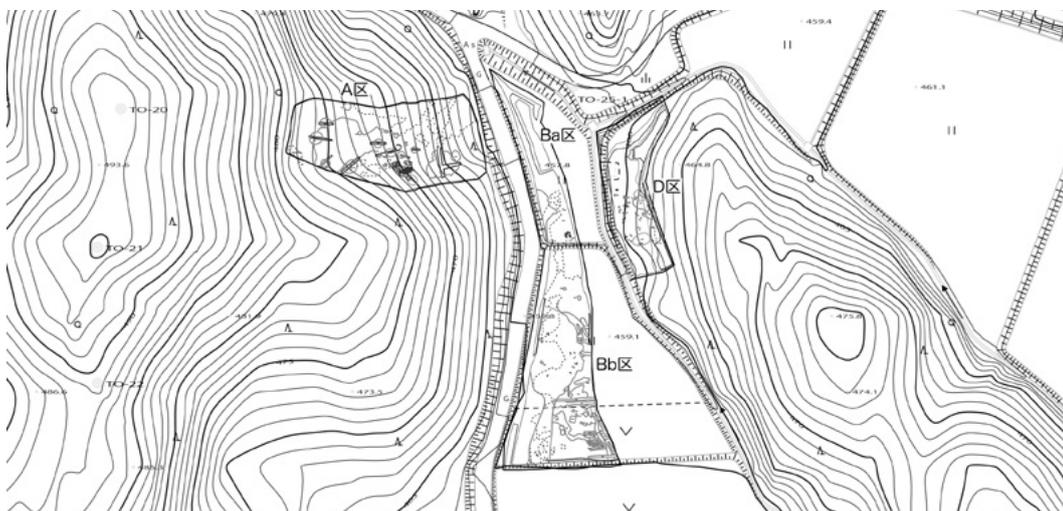
調査の経過 調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う発掘調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成24年8月21日～12月14日の期間で実施した。調査対象地の現況は旧水田耕作地などの平場と緩斜面に植林された山林となっており、調査対象地の樹木伐採の進捗状況との関係で、A区・Ba区・Bb区・D区の4カ所に調査区を分けて設定し、調査を行った。

立地と環境 栗狭間遺跡は豊田市下山田代町地内にて郡界川に合流する沖川の東岸丘陵部に位置しており、沖川に合流する谷川のの上流部にあたる谷部と谷を囲む丘陵部に遺跡が確認されている。D区のある丘陵を挟んで東に今年度愛知県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が実施された鶴ヶ池遺跡がある。調査地点の標高は456～478mである。

調査の概要 調査の結果、A区にて中世～近世の自然流路1条・土坑5基を確認し、有舌先頭器1点・石匙1点・山茶碗等が出土した。Bb区では縄文時代のドングリピット3基・中世から近世の自然流路2条・近世後半期～近代の畝状溝・溝・土坑などを確認し、ナイフ形石器2点・中世から近世の陶磁器が出土した。D区では縄文時代と思われる落とし穴の土坑2基を確認し、縄文時代早期～前期の縄文土器が出土した。近代以降の炭焼窯跡は、A区に12基、D区に2基確認した。(蔭山誠一)



栗狭間遺跡全景 (北より)



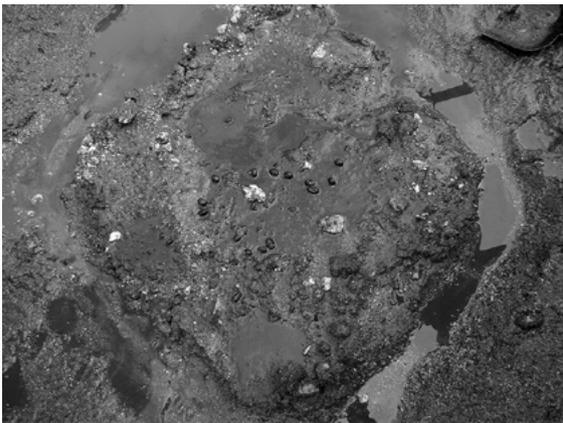
栗狭間遺跡全体図 (1:2,000)



Bb区全景(北東より)



Bb区001NR(西より)



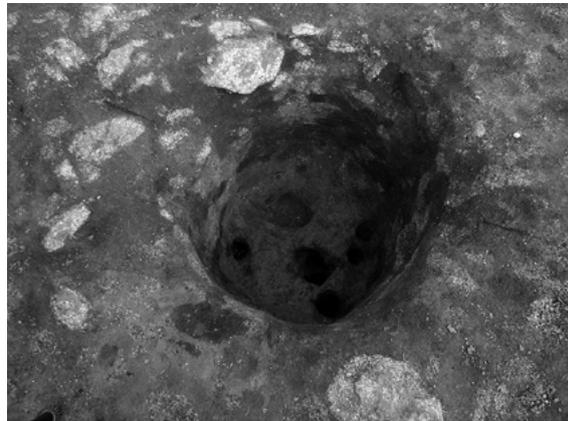
Bb区032SK、ドングリの出土状況(北より)



Bb区033SKの断面(北東より)



D区全景(北より)



D区006SK(北西より)



A区炭焼窯跡009SY(北東より)